

# 考える場

ユダヤ人・ユダヤ教

イスラエルの人口約900万人のうち、7割以上はユダヤ人で先住民のアラブ人は約2割を占める。ユダヤ人はルーツによって、中東・東欧出身のアシュケナジム、スペイン・ポルトガル出身と中東・中央アジア出身(ミズラヒム)のセファルディム、少数派のエチオピア系に大別される。ユダヤ教も教義の解釈から超正統派、正統派、保守派、改革派、再建派などに分けられ、違いが政治問題化することもある。

## イスラエル 強硬世論の背景は？



広島市大准教授 田浪亜央江さん

パレスチナ自治区ガザでは昨年10月以来、イスラム組織ハマスの攻撃に対するイスラエル軍の報復で約3万6千人の住民が犠牲になりました。誰もが禁じ得ないのはホロコースト(ナチスのユダヤ人虐殺)を体験した民族がなぜ、他者に過酷な攻撃を加えられるのかという問いです。イスラエルでの生活経験もある田浪亜央江・広島市立大准教授(中東地域研究)と考えます。

田原 昨年10月7日のパレスチナのイスラム組織ハマスなどによるイスラエルへの越境攻撃で、約1200人のイスラエル人が殺害され、約240人が人質として拉致されました。より衝撃的だったのはその後のイスラエル軍の報復です。人数では約30倍ものガザの住民たちが犠牲になっています。

田浪 報復攻撃のむきさには衝撃を受けましたが、規模については嫌な言い方ですが「さもありなん」と思いました。2008年以降、4回にわたるガザでの戦争を見てきたからです。昨年9月にパレスチナ自治区のヨルダン川西岸を訪れた際、ユダヤ人入植者の暴力が過激化しているのを目の当たりにしました。さらに極右政権もできました。そうしたこともあって「ついに来たか」と感じました。

田原 ガザの現状は住民の虐殺、飢えの強制、インフラ破壊と目を背けなくなる惨状です。にもかかわらず、イスラエル国内では3月の世論調査でも、7割の国民が戦闘継続に前向きでした。なぜでしょう。

### 論説委員が



田原牧

## 聞く

田浪 要因の一つにハマスに対する恐怖があると思います。といっても昔からではありません。05年にガザからイスラエル軍や入植者が撤退し、地区を封鎖しました。イスラエル国民はハマスを含むガザの住民と接する機会を失います。封鎖以前からハマスをテロリスト集団と見なしてはいましたが、テロリストも人間です。でも接触が途絶え、その後の戦争を経て、彼らを悪魔化する風潮が強くなった。新聞の風刺画でもゴキブリや猛獣扱いです。

# 入植地が増加 右傾化の核に

たなみ・あおえ 埼玉県生まれ。東京外国語大アラビア語学科卒。大学在学中に2年間シリアへ留学し、2003年10月から1年半、イスラエル・ハイファ大へ留学。

政府や国内メディアの影響もあり。ガザでの非人道的な状況は海外メディアによる「フレイク(偽物)だ」と繰り返す一方、国の危機を煽っている。2000年代以降、反戦運動を「テロ扇動」と見なす締め付けも増しました。強硬な世論は複合的な要因の産物です。

田原 イスラエルは国際社会で孤立を深めています。それでも国民の多数が報復攻撃に前向きになる原因として、ホロコースト体験を指摘する声があります。敵に一步でも引けば、やられかねない。世界の良識も頼りにならないという感覚が染み

## 在外ユダヤ社会に変革の芽

田原 世論の強硬さの背景としてイスラエル社会の右傾化も見逃せません。90年代に和平路線を牽引した労働党は、いまや国会(定数120)では4議席に転落。イスラエル軍のレバノン(82年)では約40万人の反戦集会が開かれましたが、遠い昔という感じ。

田浪 右傾化は単にイデオロギーの問題ではありません。原因の一つは占領地(ヨルダン川西岸や東エルサレム)での入植地の増加があると思います。占領地は第3次中東戦争(67年)で生じますが、その後、その土地で国際法違反の入植が進みます。牽引したのは極右や右派でした。それから半世紀以上がたち、入植地の人口はいまや約70万人にまで増加。そこで生まれ育った世代が右傾化の核になっていくのです。

田原 入植者団体の集会の映像を見ると、今回のガザ侵攻についても祝っていますね。ただ、イスラエルには「中東

対外的に政策を正当化する道義として利用してきます。中身も悲劇一口倒ではなく、欧州の迫害にたいに抗い、周のアラブ諸国を叩いて「建国の奇跡」を成し遂げたかという抗の物語として叩かれてい

田原 徴兵制でそれが刷りまされるのですか。ユダヤ人の人がいますが、今は和平推進である一方、息が軍の精鋭隊に所属したことが自慢で、「わねじれ」に「悪いました」田浪 兵役期間だけでなくその事前学習や性検査を通じて、長期にわたって教育されます。イスラエルでは兵役経験「立派な市民」(あかしで職でも有利に働きます。精鋭隊への入隊も日中で難関大学入ることに近いでしょう。

田原 今回の尹後の行方はパレスチナ解決案が流です。単一の方があります。せよ、国民にそれが望む機がなければ、夢にすぎません。世論調査をり期待できないですが、田浪 私も楽には孤立する傾向があったり、国際的な圧力もあえて展望をえれば、イスラエルという国を超越した世界的なユダヤ人の動きか、変革を望むしかないので、米国などのユダヤ人社会、りわけ若者の反戦運動に注目しています。BLM(黒人への力や人種差別への抗議)運動降、彼らは植民地主義の構造を欧米諸国の欺瞞を字び、それがガザにも投影している。そうした「外臣」がイスラエルを変えられるのか否か。性に立っていると聞きます。

### パレスチナ・イスラエル紛争の主な経緯

- 19世紀末 ロシアを含む欧州でユダヤ人迫害
- 1915~17年 英国の「三枚舌外交」。アラブ人には独立、ユダヤ人にはパレスチナの民族郷土建設を約束
- 47 国連総会でパレスチナ分割決議
- 48 イスラエル建国。第1次中東戦争。アラブ側は敗北
- 56 第2次中東戦争
- 64 パレスチナ解放機構(PLO)創設
- 67 第3次中東戦争。圧勝したイスラエルがガザ、ヨルダン川西岸、東エルサレム、ゴラン高原を占領
- 72 テルアビブ空港襲撃事件、ミュンヘン五輪事件
- 73 第4次中東戦争。アラブ諸国が石油戦略発動
- 74 アラファトPLO議長が国連演説
- 79 エジプトとイスラエルが平和条約締結
- 82 イスラエルがレバノン侵攻。PLOはレバノン撤退
- 87 占領地でパレスチナ人が第1次民衆蜂起
- 93 オスロ(パレスチナ暫定自治)合意
- 94 イスラエルとヨルダンが平和条約
- 2000 東エルサレムでパレスチナ人の第2次民衆蜂起
- 05 イスラエルがガザ撤退。その後、全面封鎖
- 20 アラブ首長国連邦(UAE)などアラブ4カ国がイスラエルと国交正常化(アブラハム合意)
- 23 イスラム組織ハマスがイスラエルを越境攻撃。イスラエル軍はガザに侵攻



田原牧

# 入植地が増加 右傾化の核に

たなみ・あおえ 埼玉県生まれ。東京外語大学アラビア語学科卒。大学在学中に2年間シリアへ留学し、2003年10月から1年半、イスラエル・ハイファ大へ留学。

政府や国内メディアの影響もあり。ガザでの非人道的な状況は海外メディアによる「ブレイク（偽物）だ」と繰り返す一方、国の危機を煽っている。2000年代以降、反戦運動を「テロ扇動」と見なす締め付けも増しました。強硬な世論は複合的な要因の産物です。

付いているという解釈です。田浪 ホロコーストを結び付ける言説はあります。でも、それは体験というより「物語」だという点に注意すべきです。ホロコーストは欧州で発生しましたが、国民の多数派はアラブなどそれ以外の地域の出身者たちです。親や祖父母もホロコーストは体験していない。

田原 徴兵制でそれが刷り込まれるのですか。ユダヤ人の知人がいますが、彼は和平推進派である一方、息子が軍の精鋭部隊に所属したことが自慢で、その「ねじれ」に戸惑いました。田浪 兵役期間だけでなく、その事前学習や適性検査を通じて、長期にわたって教育されます。イスラエルでは兵役経験が「立派な市民」のあかしで、就職でも有利に働きます。精鋭部隊への入隊も日本で難関大学に入ることに近い感じですが。

## 在外ユダヤ社会に変革の芽

田原 世論の強硬さの背景としてイスラエル社会の右傾化も見逃せません。90年代に和平路線を牽引した労働党は、いまや国会（定数120）では4議席に転落。イスラエル軍のレバノン侵攻（82年）では約40万人の反戦集会が開かれましたが、遠い昔という感じですが。

唯一の民主主義国家」という看板もある。住民虐殺を支えるアラブ（パレスチナ）人への差別感情と民主主義との矛盾をどう整合しているのですか。田浪 周辺のアラブ諸国に比べれば、選挙システムが機能しているという意味では民主的でしょう。でもそれだけです。

田原 今回の戦争後の行方ですが、国際社会ではパレスチナの建国による2国家解決案が主流です。単一国家案という考え方もあります。ただ、どちらにせよ、国民にそれらを望む機運がなければ、夢物語にすぎません。世論調査を見る限り、あまり期待できないのですが。

田原 右傾化は単にイデオロギーの問題ではありません。原因の一つには占領地（ヨルダン川西岸や東エルサレム）での入植地の増加があると思います。占領地は第3次中東戦争（67年）で生じますが、その後、その土地で国際法違反の入植が進みます。牽引したのは極右や右派でした。それから半世紀以上がたち、入植地の人口はいまや約70万人にまで増加。そこで生まれ育った世代が右傾化の核になっているのです。

田浪 周辺のアラブ諸国に比べて差別感情が激化したというよりも、もともとあった差別的な地金も国際的にも注目されただけというのが実感です。つまり、ハマスの襲撃によって差別感情が激化したというよりも、もともとあった差別的な地金も国際的にも注目されただけというのが実感です。

田原 私も楽観的になれませんが、宗教的な右派には孤立するほど正しいという傾向が国際的な圧力も通じにくい。あえて展望を考えれば、イスラエルという国の枠を超えた世界的なユダヤ人社会の動きから変革を望むしかないのでは。米国などのユダヤ人社会、とりわけ若者の反戦運動に注目しています。BLM（黒人への暴力や人種差別への抗議）運動以降、彼らは植民地主義の構造と欧米諸国の欺瞞を学び、それをガザにも投影している。そうした「外圧」がイスラエルを変えられるのか否か。岐路に立っていると思います。

### パレスチナ・イスラエル紛争の主な経緯

- 19世紀末 ロシアを含む欧州でユダヤ人迫害
- 1915～17年 英国の「三枚舌外交」。アラブ人には独立、ユダヤ人にはパレスチナでの民族郷土建設を約束
- 47 国連総会でパレスチナ分割決議
- 48 イスラエル建国。第1次中東戦争。アラブ側は敗北
- 56 第2次中東戦争
- 64 パレスチナ解放機構(PLO)創設
- 67 第3次中東戦争。圧勝したイスラエルがガザ、ヨルダン川西岸、東エルサレム、ゴラン高原を占領
- 72 テルアビブ空港襲撃事件、ミュンヘン五輪事件
- 73 第4次中東戦争。アラブ諸国が石油戦略発動
- 74 アラファトPLO議長が国連演説
- 79 エジプトとイスラエルが平和条約締結
- 82 イスラエルがレバノン侵攻。PLOはレバノン撤退
- 87 占領地でパレスチナ人が第1次民衆蜂起
- 93 オスロ(パレスチナ暫定自治)合意
- 94 イスラエルとヨルダンが平和条約
- 2000 東エルサレムでパレスチナ人の第2次民衆蜂起
- 05 イスラエルがガザ撤退。その後、全面封鎖
- 20 アラブ首長国連邦(UAE)などアラブ4カ国がイスラエルと国交正常化(アブラハム合意)
- 23 イスラム組織ハマスがイスラエルを越境攻撃。イスラエル軍はガザに侵攻

デザイン・赤塚千賀子